

能登半島地震と 原発

能登半島地震の震源地近くに建設が計画されていた「珠洲（すず）原発」。建設予定地だった石川県珠洲市高屋町は、今回の地震で住宅の大半が壊れ、陸路も海路も閉ざされて孤立状態に陥った。もし原発が実現していたら重大事故が起きて住民の避難がより困難になった可能性もあった。
建設を阻止したのは住民らの長年にわたる根強い反対運動だった。
（東京新聞より）
運動の中核にいた長田浩昭が語る

平和の祈りを行動の波へ

長田浩昭 講演会

参加費 千円

2024 **9/9** 月
18:30~

西本願寺札幌別院

札幌市中央区北3条西19丁目

TEL (011) 611-9322



1月1日の能登半島地震の震源地となった珠洲市は、関電・中電が10基の原発を建設しようとした予定地だった。もし珠洲原発が建設されていたら、今、中部や関西はどうなっていたらだろうか…。その計画に立ち向かい、いのちを守ってくれた人々が、被災していることを忘れてください。（長田浩昭）

—長田浩昭プロフィール—

1960年、石川県能登半島に生まれる。兵庫県丹波篠山市在住。真宗大谷派法伝寺住職。原子力行政を問い直す宗教者の会事務局。著書

『同朋会運動が見過ごしたもの-真宗大谷派における「下寺問題」とは-』（サンガ伝道叢書）
『原子力神話(鬼神)からの解放』（青草人の会）
共著『いのちを奪う原発』『原発震災と私たち』（共に東本願寺出版）

主催／北海道宗教者平和協議会

北海道宗教者平和協議会

連絡先／小林良裕 (080-1978-3423)

事務局／札幌市東区北17条東17丁目2-3 札幌元町教会気付

協賛／核戦争に反対する北海道医師・歯科医師の会 医療九条の会・北海道
北海道キリスト者平和の会 12.8戦禍を語り継ぐ会